

国語 第5学年 伝記を読んで感想文を書こう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍『新編 新しい国語（令和6年度版）』の2月～3月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

伝記に書かれた出来事と人物の選択を読み、自分の生き方に引き付けた感想をまとめる。成功の経歴の列挙にとどめず、どの経験や判断に心を動かされたかを本文で確かめる。単元の終わりに残すのは、伝記の感想文。選んだ出来事、人物の判断、本文の根拠、自分が考えたこと、友達との見方の違いを記す。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(3)オ	オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。
〔第5学年及び第6学年〕C 読むこと(1)オ	オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
〔第5学年及び第6学年〕C 読むこと(1)カ	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。
〔第5学年及び第6学年〕C 読むこと(2)イ	イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。

単元の目標

伝記などの読書が自分の考えを広げる役割に気づき、関心に応じて本を読める。伝記の内容から自分の考えをまとめ、感想の交流の中で考えを広げられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①伝記などの読書が自分の考えを広げる役割に気づき、関心に応じて本を読んでいる。〔知識及び技能〕(3)オ)	①「読むこと」において、伝記の内容から自分の考えをまとめ、感想の交流の中で考えを広げている。(C(1)オ・C(1)カ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

東京書籍の年間指導計画による全5時間（読む5）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を読み、人物の歩みと印象に残った選択を確かめる。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2	○選んだ出来事の前後を読み、判断に関わる事実を整理する。	知①（語句や内容の整理）
	3 （本時）	○人物の選択と自分の経験や考えを結び付け、感想文の中心を決める。	思①（発言・学習記録）
	4	○感想文を書いて読み合い、内容の理解と自分の意見を確かめる。	学習状況を見て支援する。
第3次	5	○交流後に追記し、伝記から考えを広げたことを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



本時の案

本時の目標：伝記の内容から自分の考えをまとめ、感想の交流の中で考えを広げられる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「手塚治虫のどの選択や行動から、自分のことを考えましたか。出来事の説明と、自分の感想を分けて話しましょう」 【めあて】伝記に書かれた出来事と人物の選択を読み、自分の生き方に引き付けた感想をまとめる。 〈予想される児童の反応〉 ・結果と選んだ理由の両方に関心をもった。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「手塚治虫のどの選択や行動から、自分のことを考えましたか。出来事の説明と、自分の感想を分けて話しましょう」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・結果と選んだ理由の両方に関心をもった。 ・自分とは違う時代や条件も考えたい。 ・同じ経験はなくても、判断の仕方を自分に引き付けられる。	伝記に書かれた事実、自分が想像した思い、自分の経験を分ける。別の伝記を参照する場合は出典を添え、食い違いは確認する。人物への尊敬を強制しない。 想定する難しさ：年表の要約だけで感想になる。偉人だから全て正しいと考える。未確認の逸話を加える。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 伝記の内容から自分の考えをまとめ、感想の交流の中で考えを広げている。（発言と学習記録）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・同じ経験はなくても、判断の仕方を自分に引き付けられる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「手塚治虫のどの選択や行動から、自分のことを考えましたか。出来事の説明と、自分の感想を分けて話しましょう」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考え

を並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまづきやすい所と手当て

難しさとして、年表の要約だけで感想になる。偉人だから全て正しいと考える。未確認の逸話を加える。この場合は、伝記に書かれた事実、自分が想像した思い、自分の経験を分ける。別の伝記を参照する場合は出典を添え、食い違いは確認する。人物への尊敬を強制しない。おおむね満足できる状況は、伝記の内容から自分の考えをまとめ、感想の交流の中で考えを広げているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

伝記の感想文。選んだ出来事、人物の判断、本文の根拠、自分が考えたこと、友達との見方の違いを記す。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：東京書籍 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。（https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_5_202401.docx）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価基準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

